

米国で家畜への抗微生物薬使用の規制強化

◆米国食品医薬品局が家畜に対する抗微生物薬規制の強化を開始

2017年1月1日から、米国で、家畜に対する抗微生物薬使用を制限する食品医薬品局（FDA）の新たな規制が実施される。米国では、抗微生物薬耐性菌の感染が毎年200万人ほどあり、その内2.3万人が亡くなっている。家畜に大量投与されている抗微生物薬は、耐性菌の出現を促し、人間の健康にも脅威を及ぼす可能性があるため、これまでも、その規制を求める声は強かった。

生産性の向上を目的として、家畜に投与される抗微生物薬は、省スペースのために込み合った環境で飼育される家畜の感染予防のためばかりでなく、その10～15%は成長促進の目的でも使われている。しかし、家畜に使用されている抗微生物薬の内、70%が人間にも使用されていることが問題視されていた。

今回のFDAの規制により、人間にも使用されるなど、医学的に重要な抗微生物薬は、家畜に使用する場合にも、これまでのように許可なしに購入することができなくなり、獣医師の監督を受けることが必要になる。

◆世界保健総会で抗微生物薬耐性に対する各国の行動計画

英国のキャメロン首相（当時）を初めとする各国指導者の強い支持もあり、15年の世界保健総会（WHA）で採択された「抗微生物薬耐性に関する世界行動計画（Global Action Plan on Antimicrobial Resistance）」の発表から2年が経過し、17年のWHAでは各国のレベルでの行動計画が議論される。15年の行動計画で、認知、監視、低減、最適化、開発の5つの項目にまとめられた中でも、家畜に対する抗微生物薬の使用の低減と最適化が取り上げられており、今回の米国の動きは、それに呼応するものである。

17年は世界保健機関（WHO）事務局長の選挙の年にも当たる。WHOは、永年、抗微生物薬耐性菌を人類の健康への重大な脅威として取り上げてきた。2年前の行動計画は現在のMargaret Chanの署名になっているが、17年5月のWHAで新たに選出されるWHO事務局長にとっても、この抗微生物薬耐性の問題への取り組みは重要な課題のひとつとなるであろう。

【戸潤一孔】